

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2014年4月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

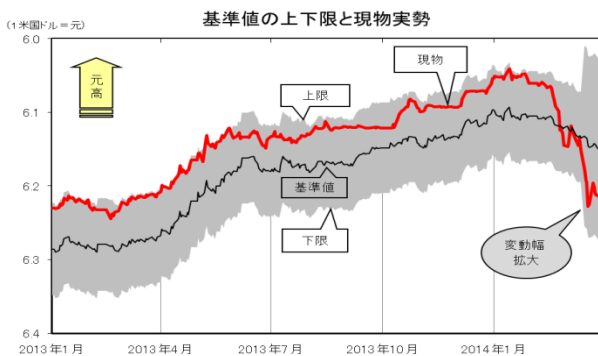
- 3月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともに下値を探る展開となったが、基準値が小幅な下落に留まったのに対し、現物実勢はそれを大幅に上回る下落率となった。
- 世界通貨の動きを見ると、インド（ルピー）やブラジル（リアル）など大きく売られていた新興国通貨が買い戻される一方、人民元は売られたことから、割高感は縮小に向った。
- 4月の人民元（現物実勢）はボックス圏（1米国ドル=6.12~6.24元）で推移すると予想。なお、その後は景気が回復に転じれば上限トライ、悪化ならもう一段安いボックス圏へ。

[前月の動き]

3月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともに下値を探る展開となった。また、基準値が小幅な下落に留まったのに対し、現物実勢はそれを大幅に上回る下落率となった（図表-1）。

基準値は最初の営業日である3日に付けた1米国ドル=6.1190元が当月高値となり、その後はじわじわと下落して最終営業日である31日に付けた同6.1521元が当月安値となり、3月末は2月末より0.5%元安・ドル高で終えた。また、許容変動幅¹の範囲内で動く現物実勢は、前月に大幅下落した反動もあって、6日には当月高値となる1米国ドル=6.1188元（スポット・オファー、中国外貨取引センター）とその日の基準値（同6.1249元）より元高になる場面もあったが、中旬には再び売り優勢となり、20日には同6.2283元と当月安値を付けた。その後は一進一退の値動きとなり、3月末は2月末より1.2%元安・ドル高となる同6.2180元で取引を終えた（図表-2）。

(図表-1)



(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成
(注) 上下限は2014年3月17日以降は基準値±2%、それまでは同±1%

(図表-2) 人民元（対米国ドル）の価格推移

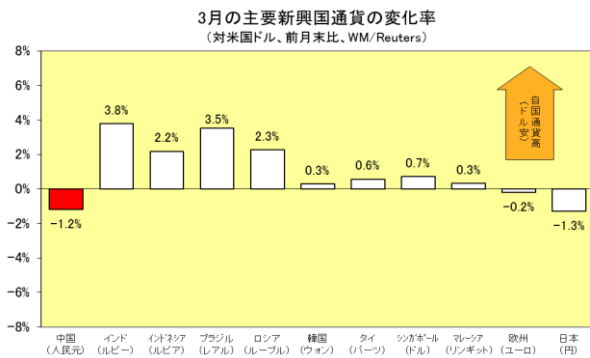
	基準値		現物実勢	
		前日比 (注)	オファー	ビッド (注)
2月末	6.1214	-	6.1460	6.1450
3月3日	6.1190	▲ 0.0024 (当月高値)	6.1468	6.1461
3月4日	6.1236	▲ 0.0046	6.1441	6.1430
3月5日	6.1257	0.0021	6.1286	6.1279
3月6日	6.1249	▲ 0.0008	6.1188	6.1180 (当月高値)
3月7日	6.1201	▲ 0.0048	6.1277	6.1264
3月10日	6.1312	0.0111	6.1391	6.1385
3月11日	6.1327	0.0015	6.1402	6.1389
3月12日	6.1343	0.0016	6.1459	6.1450
3月13日	6.1320	▲ 0.0023	6.1369	6.1361
3月14日	6.1346	0.0026	6.1498	6.1494
3月17日	6.1321	▲ 0.0025	6.1801	6.1780
3月18日	6.1341	0.0020	6.1918	6.1910
3月19日	6.1351	0.0010	6.1959	6.1941
3月20日	6.1460	0.0109	6.2283	6.2270 (当月安値)
3月21日	6.1475	0.0015	6.2249	6.2240
3月24日	6.1452	▲ 0.0023	6.1904	6.1888
3月25日	6.1426	▲ 0.0026	6.2024	6.2010
3月26日	6.1440	0.0014	6.2099	6.2092
3月27日	6.1465	0.0025	6.2134	6.2123
3月28日	6.1490	0.0025	6.2125	6.2118
3月31日	6.1521	0.0031 (当月安値)	6.2180	6.2164

(資料) CEIC (中国外貨取引センター)

¹ 許容変動幅は、3月14日までは基準値±1%だったが、3月17日より基準値±2%へ拡大されている

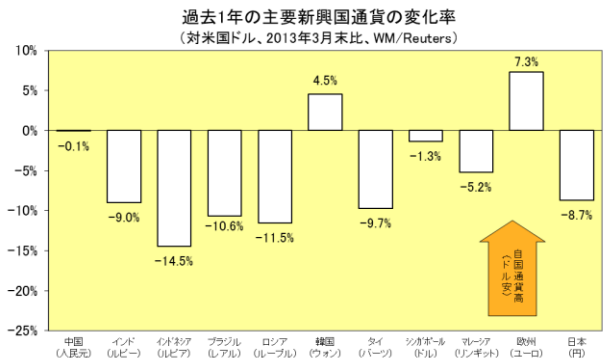
一方、3月の世界通貨の動きを見ると、インド（ルピー）が前月末比3.8%上昇、ブラジル（レアル）が同3.5%上昇、インドネシア（ルピア）が同2.2%上昇するなど、米国の量的緩和縮小（テーパリング）で売られていた新興国通貨が買い戻される展開となった。3月は人民元が売られたこともあって、割高感は一時的に縮小に向った（図表-3）。但し、1年前と比べると、人民元は米国ドルに対してほぼ横ばいで、1割前後下落した新興国通貨が多い中では引き続き割高感が残る（図表-4）。

(図表-3)



(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

(図表-4)



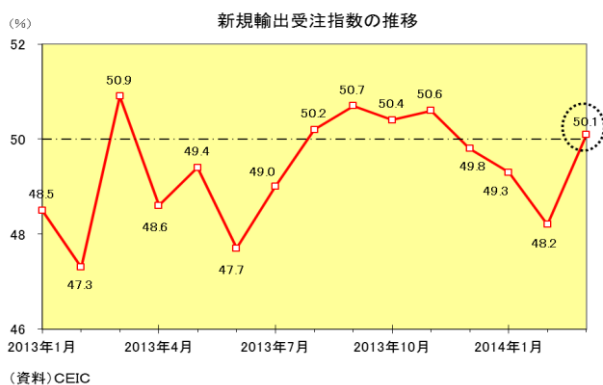
(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

[今後の展開]

さて、4月の人民元（現物実勢）はボックス圏（1 米国ドル=6.12~6.24 元）で推移すると予想している。2月中旬以降の急落で元高トレンドは一旦終了したことから、ボックスの上限は昨年秋に上昇する前の水準である同 6.12 元程度と想定している。また、4月1日に発表された製造業PMIの新規輸出受注が大幅に改善するなど輸出に改善の兆しがでてきたことから（図表-5）、昨年初にもみ合った同 6.24 元程度を下限としている。図表-6 に示した2つの山に挟まれた価格帯は、昨年の元高進行時に一気に通過した所であることから、当面はこの価格帯で値固めすると見ている。

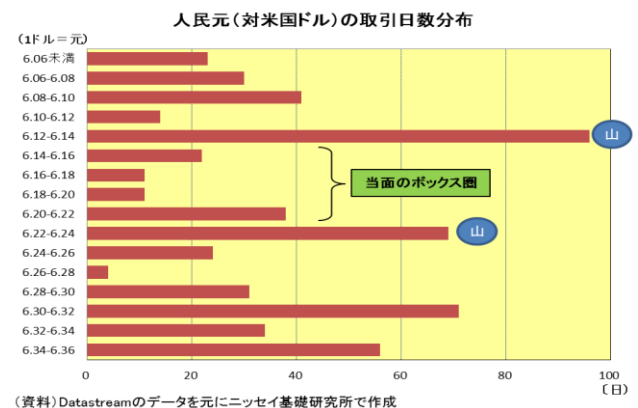
なお、その後は、景気が力強い回復を示し始めれば上限をトライ、景気がさらに悪化する兆しがでてくれば下限を抜けてもう一段安いボックス（同 6.22~6.32 元）へ移行することになるだろう。

(図表-5)



(資料) CEIC

(図表-6)



(資料) Datastreamのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。